

みずほマーケット・トピック(2018年12月7日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円相場は軟調基調で推移した。先週末の米中首脳会談で両国の追加関税が当面見送られることになったことを受けて、米中貿易摩擦激化の懸念後退から週明け3日のドル/円はギャップアップして113円台後半でオープン。一時週高値となる113.87円をつけたが、合意内容は対中追加関税の発動が90日延期されるなど根本的な解決にはなっていないことが嫌気され113円台前半まで値を下げた。4日はFRBの利上げペース減速が再度意識され米10年債利回りが9月中旬以来の水準まで低下する中で112円台後半まで急落。その後113円近辺まで上昇する場面も見られたが、米株安債券高が進行し112円台半ばまで下落した。5日は、五・十日のドル買い需要や日経平均株価の下げ渋りが意識される中で113円台を回復したが、6日は中国通信機器大手の幹部がカナダで逮捕され米国が引渡しを要求していることが伝わり、米中関係の悪化懸念から112円台半ばまで反落。その後、中国商務省の「90日以内に米国と貿易合意に達する自信がある」との声明に113円台前半まで買い戻されたが、米11月ADP雇用統計などの米経済指標が予想よりも弱い内容だったことから一時週安値となる112.23円をつけた。本日のドル/円は112円台後半を推移している。
- ・ 今週のユーロ/ドル相場は上値重い展開。週初3日に1.13台前半でオープンしたユーロ/ドルは、「イタリアが財政赤字目標をGDPの2%に引き下げを検討」との報道が伝わりイタリア財政懸念の後退から1.13台後半まで上昇したが、独金利が低下する中で1.13台前半まで値を戻した。4日は米長期金利の低下を背景にドル売りが強まったほか、EU司法裁判所の法務官が「離脱協定成立までは英国はリスボン50条発動の取り消しが可能」と発言したことが伝わり、上昇したボンド/ドルに連れ一時週高値となる1.1419をつけた。しかしその後はドル売りが一巡したことや、メイ英首相がEUと合意した離脱案が英議会に否認されるとの見方が強まり、ボンド/ドルが年初来安値を更新する動きに連れ1.13台前半まで反落した。5日はドル買い優勢となり一時週安値となる1.1312をつけたが、この水準では買い意欲も見られ直ぐに1.13台半ばまで値を戻した。6日は米金利低下を受けたドル売りが進んだことを背景に週高値に迫る1.14台前半まで急伸したが、ブレグジット問題やイタリアの予算問題が依然くすぶる中で1.13台後半まで下落した。本日のユーロ/ドルも同水準で推移している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		11/30(Fri)	12/3(Mon)	12/4(Tue)	12/5(Wed)	12/6(Thu)
ドル/円	東京9:00	113.42	113.77	113.59	112.70	113.04
	High	113.73	113.87	113.66	113.24	113.21
	Low	113.31	113.38	112.58	112.65	112.23
	NY 17:00	113.41	113.65	112.78	113.19	112.66
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1392	1.1342	1.1355	1.1343	1.1347
	High	1.1401	1.1379	1.1419	1.1361	1.1412
	Low	1.1306	1.1319	1.1319	1.1312	1.1322
	NY 17:00	1.1316	1.1353	1.1342	1.1345	1.1379
ユーロ/円	東京9:00	129.21	129.03	128.97	127.83	128.30
	High	129.27	129.38	128.99	128.46	128.44
	Low	128.43	128.55	127.64	127.79	127.67
	NY 17:00	128.46	128.99	127.93	128.41	128.22
日経平均株価		22,351.06	22,574.76	22,036.05	21,919.33	21,501.62
TOPIX		1,667.45	1,689.05	1,649.20	1,640.49	1,610.60
NYダウ工業株30種平均		25,538.46	25,826.43	25,027.07	25,027.07	24,947.67
NASDAQ		7,330.54	7,441.51	7,158.43	7,158.43	7,188.26
日本10年債		0.09%	0.09%	0.07%	0.07%	0.06%
米国10年債		2.99%	2.97%	2.91%	2.91%	2.90%
原油価格(WTI)		50.93	52.95	53.25	52.89	51.49
金(NY)		1,222.50	1,230.65	1,238.45	1,237.26	1,237.75

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、11日(火)に11月生産者物価指数(PPI)、12日(水)には11月消費者物価指数(CPI)が発表される。総合PPIは前月比0.0%とエネルギー価格の下落が下押し圧力となる一方で、コアPPIは同+0.2%と前月から横ばいになる見通しだ。総合CPIもエネルギーが全体を押し下げ前月比0.0%、コアCPIは同+0.2%と前月と同程度の伸びを維持すると予測されている。14日(金)には11月小売売上高の発表があり、前月比+0.2%(10月:同+0.8%)と減速が予想されている。11月の自動車販売台数は10月に3か月ぶりに増加したこともあって反動減となっており、小売売上高の自動車部分も減少したとみられる。ガソリンスタンドの売上高は価格・需要ともに大幅に減少しており、大きめの押し下げとなりそうだ。自動車とガソリンを除く小売売上高は同+0.6%と10月(同+0.3%)から伸びが加速し、過去12か月平均(同+0.4%)を上回る伸びが見込まれている。金融政策関連では、今晚にブレイナード理事が講演を行い、ブラック・アウト期間に入る。
- ・欧州では、13日(木)にECB政策理事会が開催される。拡大資産購入プログラム(APP)の月間購入額は今月末で終了する予定である。満期償還金の再投資は続けて残高は維持する方針だが、今後の行方に関して12月理事会で踏み込んだ決断に至るといった雰囲気は無い。ターゲット型長期流動性供給(TLTRO)についても、大量償還されるのは2020年6月であり、直ぐに代替策を用意する必要性は薄い。なお、今会合ではECBスタッフの四半期経済予測が発表となり、初めて2021年の見通しも提示する予定だ。
- ・本邦では、10日(月)に7～9月期GDP(2次速報)が公表される。3日に発表された法人企業統計などを受けて、実質GDP成長率は前期比▲0.5%(年率▲2.0%)と、1次速報(前期比▲0.3%、年率▲1.2%)から大幅に下方修正されると見込まれる。2次速報の推計に用いられる法人企業統計の名目設備投資(需要側推計の基礎統計)では、前期比▲4.0%と5四半期ぶりのマイナスとなったことで、2次速報での実質設備投資は、1次速報の前期比▲0.2%から同▲1.3%へと大幅に下方修正される見込みである。

	本 邦	海 外
12月7日(金)	・10月景気動向指数(速報)	・独10月鉱工業生産 ・ユーロ圏7～9月期GDP(確報) ・米11月雇用統計 ・米12月ミシガン大学消費者マインド(速報) ・米10月卸売売上高 ・米10月消費者信用残高
10日(月)	・7～9月期GDP(2次QE) ・10月国際収支 ・11月貸出・預金動向 ・11月景気ウォッチャー調査	・独10月貿易収支
11日(火)	・11月マネーストック	・米11月生産者物価
12日(水)	・11月国内企業物価 ・10月機械受注 ・10月第三次産業活動指数	・ユーロ圏10月鉱工業生産 ・米11月消費者物価 ・米11月財政収支
13日(木)	—————	・独11月消費者物価(確報) ・ユーロ圏ECB理事会 ・EU首脳会議(～14日)
14日(金)	・日銀短観(12月調査) ・10月鉱工業生産(確報)	・米11月小売売上高 ・米11月鉱工業生産 ・米10月企業在庫

【当面の主要行事日程(2018年12月～)】

米FOMC(12月18～19日、1月29～30日、3月19～20日)

ECB政策理事会(1月24日、3月7日、4月10日)

日銀金融政策決定会合(12月19～20日、1月22～23日、3月14～15日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

経済指標カレンダー(2018年12月)

月	火	水	木	金	週末
3 日本 自動車販売台数(11月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、11月) 米国 建設支出(10月) 米国 ISM製造業景気指数(11月)	4 日本 マネタリーベース(11月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル)	5 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、11月) 米国 ADP雇用統計(11月) 米国 ページュブック	6 ドイツ 製造業受注(10月) 米国 貿易収支(10月) 米国 耐久財受注(確報、10月) 米国 製造業受注(確報、10月)	7 日本 毎月勤労統計(10月) 日本 景気動向指数(速報、10月) ドイツ 鉱工業生産(10月) ユーロ圏 GDP(確報、7～9月期) 米国 雇用統計(11月) 米国 失業率(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、12月) 米国 卸売売上高(10月) 米国 消費者信用残高(10月)	
10 日本 GDP(確報、7～9月期) 日本 国際収支(10月) 日本 貸出・預金動向(11月) 日本 景気ウォッチャー調査(11月) ドイツ 貿易収支(10月)	11 日本 マネーストック(11月) 米国 生産者物価(11月)	12 日本 国内企業物価(11月) 日本 第三次産業活動指数(10月) ユーロ圏 鉱工業生産(10月) 米国 消費者物価(11月) 米国 財政収支(11月)	13 ドイツ 消費者物価(確報、11月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) EU首脳会談(～14日)	14 日本 日銀短観(10～12月期) 日本 鉱工業生産(確報、10月) 米国 小売売上高(11月) 米国 鉱工業生産(11月) 米国 企業在庫(10月)	
17 ユーロ圏 貿易収支(10月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、11月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(12月)	18 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(10月) ドイツ IFO企業景況指数(12月) 米国 住宅着工(11月) 米国 FOMC(～19日)	19 日本 貿易収支(11月) 日本 金融政策決定会合(～20日) 米国 中古住宅販売(11月)	20 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(12月) 米国 景気先行指数(11月)	21 日本 全国消費者物価(11月) 米国 個人消費・所得(11月) 米国 GDP(3次速報、7～9月期) 米国 個人消費(3次速報、7～9月期) 米国 PCEコアデフレーター(3次速報、7～9月期) 米国 耐久財受注(速報、11月) 米国 製造業受注(速報、11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、12月)	
24 日本 振替休日 米国 シカゴ連銀全米活動指数(11月)	25 日本 企業向けサービス価格(11月) 日本 景気動向指数(確報、10月)	26 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(10月)	27 日本 新設住宅着工(11月) 米国 新築住宅販売(11月) 米国 消費者信頼感指数(12月)	28 日本 失業率(11月) 日本 東京都都区消費者物価(12月) 日本 鉱工業生産(速報、11月) ドイツ 消費者物価(速報、12月)	
31 日本 大晦日 米国 シカゴ購買部協会景気指数(12月)					

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2019年1月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 元日	2 ユーロ圏 製造業PMI(確報、12月)	3 米国 建設支出(11月) 米国 ISM製造業景気指数(12月)	4 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、12月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、12月) 米国 雇用統計(12月) 米国 失業率(12月)	
7 日本 自動車販売台数(12月) 米国 製造業受注(確報、11月) 米国 耐久財受注(確報、11月)	8 米国 貿易収支(11月)	9 日本 毎月勤労統計(11月) ユーロ圏 失業率(11月) 米国 FOMC議事要旨 (2018年12月18～19日開催分)	10 日本 景気動向指数(速報、11月)	11 日本 国際収支(速報、11月) 日本 景気ウォッチャー調査(12月) 米国 消費者物価(12月) 米国 財政収支(12月)	
14 日本 成人の日 ユーロ圏 鉱工業生産(11月)	15 日本 マネーストック(12月) ユーロ圏 貿易収支(11月) 米国 生産者物価(12月)	16 日本 国内企業物価(12月) 日本 第三次産業活動指数(11月) 日本 機械受注(11月) ドイツ 消費者物価(確報、12月) 米国 小売売上高(12月)	17 ユーロ圏 消費者物価指数(確報、12月) 米国 住宅着工(12月)	18 日本 全国消費者物価(12月) 日本 鉱工業生産(確報、11月) 米国 鉱工業生産(12月)	
21	22 日本 金融政策決定会合(～23日) 米国 中古住宅販売(12月)	23 日本 貿易収支(12月) 日本 全産業活動指数(11月)	24 日本 景気動向指数(確報、11月) ユーロ圏 製造業PMI(速報、1月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、1月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	25 日本 東京都都区部消費者物価(1月) ドイツ IFO企業景況指数(1月) 米国 製造業受注(速報、12月) 米国 耐久財受注(速報、12月) 米国 新築住宅販売(確報、12月)	
28	29 米国 FOMC(～30日)	30 米国 GDP(速報、10～12月期) 米国 PCEコアデフレーター(速報、10～12月期) 米国 個人消費(速報、10～12月期)	31 日本 鉱工業生産(速報、12月) 日本 新設住宅着工(12月) ユーロ圏 失業率(12月) ユーロ圏 GDP(1次速報、10～12月期) 米国 雇用コスト(10～12月期) 米国 個人消費・所得(12月)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2018年12月5日	遂に発生した逆イールド～金利に追隨する株値～
2018年12月4日	バリ暴動の読み方～2つの懸念～
2018年12月3日	米中首脳会談～2020年まで続きそうな「壮大なマッチポンプ」～
2018年11月30日	週末版
2018年11月28日	メインシナリオへのリスク点検～FRBは来年こそ変わる～
2018年11月27日	続・「安全資産としての円買い」が勢いつかない理由
2018年11月26日	ECB政策理事会議事要旨～TLTRO3の行方～
2018年11月22日	週末版(制裁手続き着手を表明した欧州委員会～イタリアにとっては辛いポリシーミックス～)
2018年11月21日	ノーディールを視野に入れ始めたボンド相場
2018年11月20日	ユーロ圏を巡る資本フローとユーロ相場について
2018年11月19日	イタリア政局を巡る現状と展望～制裁が視野に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年10月分)
2018年11月16日	週末版
2018年11月15日	メイ首相、最後の戦いへ～「外」から「内」へ～
2018年11月14日	ドル/円相場、現水準をどう理解すべきか
2018年11月13日	四面楚歌のユーロ相場～「5つの不安」～
2018年11月12日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2018年11月9日	週末版(米中間選挙の見通しへの影響～不透明感後退も見通し大勢に影響なし～)
2018年11月8日	メンツを賭けた「7.0防衛」の危うさ～外準減少を受けて～
2018年11月7日	示唆される世界経済の先行き減速懸念～PMIとCLI～
2018年11月6日	露わになるユーロ圏の経済減速～注目されるECBの挙動～
2018年11月5日	米景気改善の「きわみ」～悩ましい貯蓄率の読み方～
2018年11月2日	週末版(ドル相場の近況に思うこと～ドル高の背景と今後の勘所～)
2018年10月30日	「メルケルなきEU」の幕開け～理想主義の後始末へ～
2018年10月29日	メインシナリオへのリスク点検～「高値波乱含み」という警告～
2018年10月26日	週末版(ECB政策理事会を終えて～不安を煽るECBの強気～)
2018年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年10月24日	「安全資産としての円買い」が勢いつかない理由
2018年10月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年9月分)
2018年10月19日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～鏡に映った自分」に踊るFRBの危うさ～)
2018年10月18日	為替政策報告書を受けて～抜き出した中国の取り扱い～
2018年10月17日	ブレグジットを巡る近況整理～曖昧な危機認識～
2018年10月16日	ユーロ相場と資本フローの近況
2018年10月15日	為替条項要求の冷静な読み方～底うほど弱点として露呈～
2018年10月12日	週末版(国際と信統計が示唆するドル高リスク～ドル建て債務を如何に軟着陸させるべきか～)
2018年10月11日	NYダウ平均株価の大幅調整について～起こるべくして・・・～
2018年10月10日	ベシス上昇と米金利上昇とドル/円上昇の関係
2018年10月9日	米9月雇用統計を受けて～「想定外の加速」は継続中～
2018年10月5日	週末版(ECBが迎える「未知の世界」～緊縮下での金融引き締め～)
2018年10月4日	ドイツ化するユーロ圏～求められる正しい陣頭指揮～
2018年10月3日	イタリア政局の整理～今回ばかりはイタリアに言い分も～
2018年10月2日	外国人労働者受け入れ拡大～昔「円高是正」、今「人手不足」～
2018年10月1日	円高見通しが実現していない理由
2018年9月28日	週末版
2018年9月27日	FOMCを終えて～見えてきた転換点～
2018年9月25日	メインシナリオへのリスク点検～オーバーキルを巡る見解～
2018年9月21日	週末版
2018年9月20日	安倍首相による緩和撤退宣言～言うは易し・・・だが～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年8月分)
2018年9月19日	市場は「返り血」を浴びるまで分からないのか？
2018年9月18日	基軸通貨ユーロという「見果てぬ夢」～機能面からの再考～
2018年9月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資方針とユーロ高に対するヒントあり～)
2018年9月13日	突然の基軸通貨宣言をどう読むか～ユンケル発言について～
2018年9月12日	続・リーマン10年で注目される次のショックの「芽」
2018年9月10日	リーマン10年で注目される次のショックの「芽」
2018年9月7日	週末版(「次の標的は日本」の本気度～第2回日米貿易協議(FFR)を前に～)
2018年9月6日	軟化を続けるソフトデータ～皮肉な米経済の好調～
2018年9月5日	ECB利上げを巡り政治的な動き？～ECOFINのテーマに～
2018年9月4日	主要通貨で「膠着」が続く理由～鑑みせは新興国に～
2018年9月3日	「保護主義は中間選挙まで」という危うい楽観
2018年8月31日	週末版
2018年8月29日	米国株独り勝ちをどう読むか？～BISビューに基づく抑制へ～
2018年8月28日	メインシナリオへのリスク点検～高まる欧州政治リスク～
2018年8月27日	ECB総裁が欧州委員長か～メルケル独首相の憂心～
2018年8月24日	週末版
2018年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年7月分)
2018年8月17日	週末版(2018年上半期の対米資本フローの整理～色褪せる「カネ余り」、「ゴルドイロックス」～)
2018年8月15日	イタリア国債利回りの急騰～もう1つの潜在的危機～
2018年8月14日	第二次資本流出局面が始まったのか？
2018年8月13日	トルコショックの真の脅威は「欧州難民危機」の再燃
2018年8月10日	週末版
2018年8月9日	ボンド安が支えるユーロ堅調～元安、トルコリラ安も～
2018年8月8日	2018年上半期の円相場の基礎的需給環境
2018年8月7日	中国の米国債売却はあり得るのか？
2018年8月6日	ソフトデータが暗示する世界経済失速
2018年8月3日	週末版(BOE利上げの正しい読み方～市場の本音は「理解に苦しむ」～)
2018年8月2日	FOMCを終えて～肅々とオーバーキルを予想～
2018年8月1日	日銀金融政策決定会合を終えて～いつまでもチャンスは無い～
2018年7月30日	メインシナリオへのリスク点検～いよいよ「伝家の宝刀」？～
2018年7月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～金利ガイダンスの正しい読み方～)
2018年7月26日	日銀正常化観測と日米貿易協議(FFR)の関係性
2018年7月20日	週末版(「クレートモデレーション」再来を疑う時～「保険の売り」は慢心の表れ～)
2018年7月19日	危うい「理由なきドル/円上昇」～金利・物価情勢は支持せず～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年6月分)
2018年7月17日	貿易戦争懸念と為替市場の現状～一部市場に異変も～
2018年7月13日	週末版(「新興国市場の混乱」と「炭鉱のカナリア」～米国のクレジットスプレッドは着実に拡大中～)
2018年7月12日	ドイツ住宅市場の現状と展望～見過ごされる「バブルの芽」～
2018年7月10日	混迷を深めてきた英国のEU離脱プロセス～論点整理～
2018年7月9日	米中間戦の時～欧州も巻き込み貿易大戦の様相か？～
2018年7月6日	週末版
2018年7月5日	ECBを待ち受ける險路～「試練の秋」～